

公的資金補償金免除繰上償還に係る公営企業経営健全化計画

基本的事項

1 事業の概要

特別会計名：四万十市水道事業会計

事業名	末端給水事業（上水道事業）		
事業開始年月日	大正15年3月1日	地方公営企業法の適用・非適用	適用 非適用
団体名		職員数（H19.4.1現在）	10人
構成団体名			

注1 事業を実施する団体が一部事務組合等（一部事務組合、広域連合及び企業団をいう。以下同じ。）の場合は、「団体名」欄に一部事務組合等の名称を記載し、「構成団体名」欄にその構成団体名を列記すること。

2 「職員数」欄には、当該事業に従事する全職員数を記載すること。

2 財政指標等

資本費	61円（H18）	公営企業債現在高（百万円）	2,831（H18）
累積欠損金（百万円）	0	利益剰余金又は積立金（百万円）	126（H18）
不良債務（百万円）	0	財政力指数	0.388（H18）
資金不足比率（％）	0	実質公債費比率（％）	19.0（H19）
		経常収支比率（％）	97.6（H18）

注 平成17年度（又は平成18年度）の公営企業決算状況調査、地方財政状況調査等の報告数値を記入すること。
 なお、財政力指数、実質公債費比率及び経常収支比率は、当該事業の経営主体である地方公共団体の数値を記載し、当該事業が一部事務組合等により経営されている場合は、その構成団体の各数値を加重平均したものを記載すること。（ただし、旧資金運用部資金及び旧簡易生命保険資金について対象としない財政力1.0以上の団体の区分については構成団体の中で最も低い財政力指数を記載すること。）

3 合併市町村等における公営企業の統合等の内容

新法による合併市町村、合併予定市町村における公営企業の統合等の内容 レ 旧法による合併市町村における公営企業の統合等の内容 該当なし
〔合併期日：平成17年4月10日 合併前市町村：中村市・西土佐村〕 中村市と西土佐村で合併を行ったが、上水道の給水区域は中村地域だけであり、公営企業の統合は行っていない。

注1 「新法による合併市町村、合併予定市町村」とは、市町村の合併の特例等に関する法律（平成16年法律第59号）第2条第2項に規定する合併市町村及び同条第1項に規定する市町村の合併をしようとする市町村で地方自治法（昭和22年法律第67号）第7条第7項の規定による告示のあったものをいう。

2 「旧法による合併市町村」とは、市町村の合併の特例等に関する法律（昭和40年法律第6号）第2条第2項に規定する合併市町村（平成7年4月1日以後に同条第1項に規定する市町村の合併により設置されたものに限る。）をいう。

3 レを付けた上で内容を記載すること。

4 公営企業経営健全化計画の基本方針等

区分	内容
計画名	上水道事業経営健全化計画
計画期間	平成19年度～平成23年度
計画策定責任者	四万十市長 澤田五十六
既存計画との関係	「第1次四万十市行政改革大綱実施計画」（平成17年度～平成21年度） 「四万十市公債費負担適正化計画」（平成19年度～平成26年度）
公表の方法等	市公式ホームページにより公表。12月もしくは3月議会で予算化の際に議会説明予定。
基本方針	行政改革大綱実施計画、公債費負担適正化計画と歩調を合わせつつ、料金の適正化、維持管理等コストの削減、未収金対策の強化、建設事業費の抑制に努め公債費負担の軽減を図り安定した経営を図る。

注 計画期間については、原則として平成19年度から23年度までの5か年とすること。

基本的事項（つづき）

5 繰上償還希望額等

(単位：百万円)

区 分		年利5%以上6%未満	年利6%以上7%未満	年利7%以上	合 計
旧資金運用部資金	繰上償還希望額	-	87	283	369
	補償金免除額	-	23	53	75
旧簡易生命保険資金	繰上償還希望額	-	-	-	-
公営企業金融公庫資金	繰上償還希望額	-	4	144	148

注 「旧資金運用部資金」の「補償金免除額」欄は、各地方公共団体の「繰上償還希望額」欄の額に対応する額として、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額であり、各地方公共団体の所在地を管轄とする財務省財務局・財務事務所に予め相談・調整の上、確認した補償金免除(見込)額を記入すること。

6 平成19年度末における年利5%以上の地方債現在高の状況

【旧資金運用部資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度末残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公 営 企 業 債	水道事業		86,583	282,596	369,179
合 計 (A)			86,583	282,596	369,179
一 般 上 記 の う ち (再掲)					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)			86,583	282,596	369,179

【旧簡易生命保険資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成21年度末残高)	年利7%以上 (平成20年度9月期残高)	合 計
公 営 企 業 債					
合 計 (A)					
一 般 上 記 の う ち (再掲)					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

【公営企業金融公庫資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成20年度9月期残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度9月期残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公 営 企 業 債	水道事業		3,840	144,277	148,117
合 計 (A)			3,840	144,277	148,117
一 般 上 記 の う ち (再掲)					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)			3,840	144,277	148,117

注1 地方債計画の区分ごとに記入すること。
2 必要に応じて行を追加して記入すること。

財務状況の分析

区 分	内 容	
財務上の特徴	給水区域内における普及率は97.9%（類似団体80.36%：H17）と高くなっているが、年間総配水量・有収水量ともに人口減少や節水意識の高まり等により年々減少傾向にある。経営についてはH18決算で12百万円の純利益が生じているが、今後は景気の低迷や大口需要の伸び悩みなどにより、事業収益は減少傾向にあり、経営状況は厳しさが予想される。平成19年5月の料金改定による収入確保や定員管理の適正合理化に努め、安定した経営を図る。	
経営課題	課 題	料金水準の適正化
	平成19年5月に料金改定を実施。しかしながら料金水準は類似団体の平均を下回っており、収入の基盤を強化するため経営状況を判断しながら料金改定を検討する必要がある。（平成23年度に料金見直し作業を予定）	
	課 題	定員管理の適正合理化
	各施設点検、水質検査等の民間委託により、職員の定員管理の適正合理化に努める。	
	課 題	資本投下の抑制
	建設改良費のうち布設替え等の更新経費が多くを占めるようになっている。拡張事業等の大型投資は見直しをしており、計画的な事業実施により建設改良費の年度間の平準化を図る。	
課 題	維持管理費等サービス供給コストの節減合理化	
徹底したコスト削減意識を持つことが必要。有収率向上対策としても計画的に漏水調査、老朽管更新による漏水防止対策を講じ、維持修繕経費等の大幅な増加を防ぐ。		
課 題	未収金対策	
戸別訪問や口座振替制度の推進等、未収金対策を強化する。		
留意事項		

- 注1 「財務上の特徴」欄は、事業環境や地域特性等を踏まえて記載すること。また、経営指標等について経年推移や類似団体との水準比較などを行い、各自工夫の上説明すること。
- 2 「経営課題」欄は、料金水準の適正化、資産の有効活用、給与水準・定員管理の適正合理化、維持管理費等サービス供給コストの節減合理化、資本投下の抑制、民間的経営手法等の導入等、団体が認識する経営上の課題について、優先度の高いものから順に記載する。また、経営課題と認識する理由を類似団体等との比較を交えながら具体的に説明すること。
- 3 「留意事項」欄は、「経営課題」で取り上げた項目の他に、経営に当たって補足すべき事項を記載すること。
- 4 必要に応じて行を追加して記入すること。

(3) 経営指標等

(単位:%)

		平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)	
資金不足比率	(%) (再掲)											
料金回収率	(%)	101.10	97.60	99.43	101.55	98.29	101.08	105.17	103.45	100.99	98.46	
総収支比率(法適用)	(%)	104.23	101.06	101.55	103.18	103.12	106.12	110.46	108.71	106.19	103.61	
経常収支比率(法適用)	(%)	104.83	101.63	103.94	103.39	103.12	106.12	110.46	108.71	106.19	103.61	
営業収支比率(法適用)	(%)	149.03	139.78	145.35	144.98	138.70	138.67	135.15	132.15	129.21	126.34	
累積欠損金比率(法適用)	(%) (再掲)											
収益的収支比率(法非適用)	(%) (再掲)											
不良債務比率(法適用)又は 赤字比率(法非適用)	(%) (再掲)											
繰入金比率	収益的収入分	(%)	0.86	0.87	1.22	1.30	1.44	1.22	1.17	1.14	1.13	1.12
	うち基準内繰入金	(%)	0.16	0.08	0.31	0.19	0.24	0.09	0.09	0.09	0.10	0.10
	うち基準外繰入金	(%)	0.70	0.79	0.91	1.11	1.20	1.13	1.08	1.05	1.03	1.02
	うち料金収入に計上すべき繰入等	(%)										
	うち赤字補てん的なもの	(%)										
	資本的収入分	(%)	3.25	4.41	4.26	5.20	6.71	1.46	4.52	27.21	8.11	28.18
	うち基準内繰入金	(%)	2.40	2.75	2.15	2.46	3.32	0.55	1.36	2.19	2.21	2.15
	うち基準外繰入金	(%)	0.85	1.66	2.11	2.74	3.39	0.91	3.16	25.02	5.90	26.03
	うち赤字補てん的なもの	(%)										

注1 上記の各指標の算出方法については、次のとおりであること。

(1) 資金不足比率(%)

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = 地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = 地方財政法施行令第20条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

(2) 総収支比率(%) = 総収益 / 総費用 × 100

(3) 経常収支比率(%) = 経常収益 / 経常費用 × 100

(4) 営業収支比率(%) = (営業収益 - 受託工事収益) / (営業費用 - 受託工事費用) × 100

(5) 累積欠損金比率(%) = 累積欠損金 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

(6) 収益的収支比率(%) = 総収益 / (総費用 + 地方債償還金) × 100

(7) 不良債務比率(又は赤字比率)(%) = 不良債務(又は実質赤字額) / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

(8) 繰入金比率(%) = 収益的収入に属する他会計繰入金(又は資本的収入に属する他会計繰入金) / 収益的収入(又は資本的収入) × 100

2 上記指標のうち「料金回収率」は、水道事業(簡易水道事業を含む)、工業用水道事業及び下水道事業(下水道事業にあっては使用料回収率)について記載すること。

(1) 水道事業、工業用水道事業に係る料金回収率の算出方法

・料金回収率(%) = 供給単価 1 / 給水原価 2 × 100

1 供給単価(円/m³) = 給水収益 / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算定に係るもの)2 給水原価(円/m³) = (経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 基準内繰入金(水道事業のみ))) / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算定に係るもの)
但し、簡易水道事業については下記によるものとする。

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = (経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 基準内繰入金 + 減価償却費) + 企業債償還金) / 年間総有収水量

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = (総費用 - (受託工事費 + 基準内繰入金) + 地方債償還金) / 年間総有収水量

(2) 下水道事業に係る使用料回収率の算出方法

・使用料回収率(%) = 使用料収入 / 汚水処理費 × 100

(4) 収支見通し策定の前提条件

条件項目	収支見通し策定に当たった考え方(前提条件)
1 料金設定の考え方、料金収入の見込み	料金見込みについては、昭和60年より据え置いていた料金を、平成19年5月に改定を行ったため、当年は増収の見込みであるが、近年の総配水量・有収水量が減少傾向にあることから、年々低下するものと見込んでいる。(次回料金改定については平成23年度に見直しを行う予定。)
2 他会計繰入金の見込み	基準内繰入(消火栓維持補修、設置)については実績をもとに算出。基準外繰入(土地区画整理事業地内の水道管布設を公営企業において施工した分の起債元利償還金)については償還予定より算出。
3 大規模投資の有無、資産売却等による収入の見込み	無し。
4 その他収支見通し策定に当たって前提としたもの	計画的な事業実施による建設改良費の年度間の平準化。

注1 収支見通しを策定するに当たって、前提として用いた各種仮定(前提条件)について、各区分に従い、それぞれその具体的な考え方を記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

経営健全化に関する施策

項 目	具 体 的 内 容
1 行革推進法を上回る職員数の純減や人件費の総額の削減	
地方公務員の職員数の純減の状況	民間委託の推進等の取組みにより職員の定員管理の適正合理化に努め、平成19年度より1名削減した。(11名 10名) 平成19年度以降の各年度において、対18年度7,308千円の人件費を削減(減員分職員給与費H18実績より算出) (課題) 集中改革プランは公営企業ごとに作成していないが、市全体としてH21年度には目標を達成する見込み。以後についても引き続き削減を実施する予定。
給与のあり方	
国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ H18.4.1～国家公務員の行(一)給料表に準じ給料表の見直し済。なお、地域手当の支給はなし。 ・ 個別給与制度の見直し わたり等：係長相当職5級を1級引き下げ、4級への格付け見直し。(H19年度職員団体申入予定) 特殊勤務手当：条例上「危険手当」を設けていた(実支給はなし)が、合併時(H17.4.10)廃止。 高齢層(55歳以上)職員昇給抑制：H19.1.1昇給から1/2抑制実施済 ・ 能力、実績に基づいた人事・給与制度の構築・・・H18年度～人事評価制度の試行中(H18：課長級、H19：課長、補佐級)で、その結果を踏まえ段階的な本格導入に取り組む。
技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方	該当無し
退職時特昇等退職手当のあり方	廃止済
福利厚生事業のあり方	市町村互助会負担金の見直し：H18年度～個人給付事業を廃止し負担率削減(13.2/1000 5.6/1000)
2 物件費の削減、指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用等	
維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組	修繕・維持管理費等の削減および有収率向上対策として、老朽管更新による漏水防止や漏水調査を実施。 (課題)
指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用	検針・集金業務、庁舎清掃、宿直、水質検査を民間委託をしており、平成19年度より施設点検・清掃を新たに委託した。

経営健全化に関する施策（つづき）

項 目	具 体 的 内 容
3 コスト等に見合った適正な料金水準への引上げ、売却可能資産の処分等による歳入の確保	平成19年5月に料金改定を実施。当該料金改定(改定率6.6%)により、平成19年度以降の各年度に対18年度26百万円の増収額が算出される。しかしながら料金水準は類似団体の平均を下回っており、収入の基盤を強化するため経営状況を判断しながら料金改定を検討する必要がある。(平成23年度に料金見直し作業を予定) (課題)
料金水準が著しく低い団体にあつては、コスト等に見合った適正な料金水準への引き上げに向けた取組	景気低迷、市民の節水意識の高まりなどから有収水量の増加は見込めないため、未収金対策に力を入れながら、料金見直しを検討する。(平成23年度に料金見直し作業を予定)
4 経営健全化や財務状況に関する情報公開の推進と行政評価の導入	
経営健全化や財務状況に関する情報公開	公式ホームページ、市広報等を活用し、実施していきたい。(予算・決算については広報に掲載している。)
行政評価の導入	
5 その他	

注1 上記区分に応じ、「財務状況の分析」の「経営課題」に掲げた各課題に対応する施策を具体的に記入すること。その際、どの課題に対応する施策が明らかとなるよう、に付した課題番号を引用しつつ、記入すること。

2 上記に記入した各種施策のうち、当該取組の効果として改善額の算出が可能な項目については、「繰上償還に伴う経営改革効果」の「年度別目標等」にその改善額を記入すること。なお、当該改善額が対前年度との比較により算出できない項目（資産売却収入・工事コスト縮減など）については、当該改善額の算出方法も併せて上記各欄に記入すること。

3 必要に応じて行を追加して記入すること。

繰上償還に伴う経営改革促進効果

1 主な課題と取組み及び目標

課題	取組み及び目標
料金水準の適正化	平成19年5月に料金改定を実施。当該料金改定（改定率6.6%）により、平成19年度以降の各年度に対18年度26百万円の増収額が算出される。しかしながら料金水準は類似団体の平均を下回っており、収入の基盤を強化するため経営状況を判断しながら料金改定を検討する必要がある。（平成23年度に料金見直し作業を予定）
定員管理の適正合理化	民間委託の推進等の取組みにより職員の定員管理の適正合理化に努め、平成19年度より1名削減した。（11名 10名）平成19年度以降の各年度において、対18年度7,308千円の人件費を削減（減員分職員給与費H18実績より算出）

注1 上記各項目には、 で採り上げた経営課題に対応する取組として に掲げた経営健全化に関する施策のうち、それぞれ各項目に該当するものについて、その対応関係が分かるように記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

2 年度別目標等 次頁以下（1）から（5）までの各事業別様式を参考に、以下の考え方に沿って策定すること。

（各事業共通留意事項）

1. 次頁以下の各事業別様式は、「年度別目標」を策定するに当たって参考となるよう例示的な様式を示したものであり、2に掲げた項目以外は必ずしも全ての項目に記入を要するものではなく、各団体の各事業の状況にあわせて記入可能な項目のみ記入し又は独自の取組に応じた項目を立てて記入することは差し支えないものであること。
2. 各事業別様式は参考例示ではあるが、各様式中の「目標又は実績」欄の項目のうち、職員数、行政管理経費（人件費、物件費、維持補修費等）に該当する項目並びに累積欠損金比率及び企業債現在高は、年度別目標策定に際して必須項目とされているので漏れないよう留意すること。なお、これらの項目のうち、職員数、行政管理経費については、各団体（事業）の取組状況に応じて、適宜、細分化（例：職員数 職種別に区分、正職員と臨時職員とを分離計上等）することは差し支えないこと。
3. 「目標又は実績」欄の項目中、「職員数」については、前年度との比較によりその増減数を各年度の「増減数」欄に計上するとともに、計画期間中の「増減数」の合計は「計画合計」欄に計上し、計画前5年間の「増減数」の合計は「計画前5年間実績」欄に計上すること。
4. 「目標又は実績」欄の項目の見直し施策実施に係る「改善額」は、原則として、当該見直し施策実施年度の前年度との比較により算出し、その改善効果がその後も継続するものとして、その後の各年度の改善額を計上すること。
5. 4による「改善額」が対前年度との比較により算出できない項目、その改善効果が単年度に限られる項目（資産売却益、工事コスト縮減等）については、当該改善額のみ当該見直し施策の実施年度の「改善額」欄に計上すること。またその場合の改善額の算出方法について、 の当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。
6. 計画期間中に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画合計」欄に計上すること。また、計画前5年間に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画前5年間実績」欄に計上すること。
7. 「改善額 合計」欄及び「計画前5年間改善額 合計」欄には、それぞれの期間に係る人件費（退職手当以外の職員給与費）その他改善額を計上することが可能なものの合計（「計画合計」及び「計画前5年間実績」それぞれの合計）を記入すること。その際、同一項目に係る内訳に相当するもの等を重複計上することのないよう留意すること。
8. 「（参考）補償金免除額」欄に記入する「補償金免除額」とは、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額（補償金免除（見込）額）であり、 の「5 繰上償還希望額等」に記入した「旧資金運用部資金」の「繰上償還希望額」に対応する「補償金免除額」の「合計」欄の額を転記すること。
9. 以上の他、各事業別様式において、記入を求められている経営指標その他の項目等については各事業別様式の指示（留意事項）に従うこと。
10. 必要に応じて行を追加して記入すること。

線上償還に伴う経営改革促進効果（つづき）

2 年度別目標等

(1) 水道事業

年度別目標

(単位:百万円、%)

課題	目標又は実績	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	計画前5年間 実績	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)	計画合計
【収入の確保】													
	料金改定率							6.6					
	改善額(料金の適正化) 1							26	26	26	26	26	130
	未収金の徴収対策												
	改善額												
	一般会計負担金の額												
	改善額(負担金の確保等)												
	資産の有効活用												
	改善額(収入増額)												
	その他()												
	改善額												
【経費の削減】													
	職員給与費の適正化												
	職員給与費(退職手当以外)												
	改善額							7	7	7	7	7	35
	給与水準												
	改善額												
	その他(減員)												
	改善額							7	7	7	7	7	35
	職員給与費(退職手当)												
	職員数(人)	11	11	11	11	11		10	10	10	10	10	10
	増減数(人)						0	1					1
	維持管理費等(修繕費)	16	18	17	17	17		17	17	17	17	17	17
	改善額(適正化)												
	工事コスト 2												
	改善額(縮減額)												
	その他()												
	改善額												
	累積欠損金比率												
	増減												
	企業債現在高	2,902	2,917	2,920	2,890	2,831		2,775	2,729	2,651	2,614	2,555	
	増減	2	15	3	30	59		56	46	78	37	59	
							計画前5年間改善額 合計						改善額 合計
													165
													(参考) 補償金免除額
													75

注1 「課題」欄については、「1 主な課題と取組み及び目標」の「課題」欄の番号を記入すること。

2 1「改善額(料金の適正化)」については、「料金改定に伴う料金増収額」を記入すること。

2「工事コスト」については、工法の見直し等による建設コストの縮減(建設改良費の抑制は除く。)を記入すること。

3 改善額の算出方法については、の当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。

4 必要に応じて行を追加して記入すること。また、会計規模により必要に応じて単位を百万円から千円に変更することも可とするが、「改善額合計」を算出する際の単位誤り、誤計上(重複計上等)がないよう留意すること。

経営状況

	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)
給水人口 (千人)	25816	25,844	25,793	25,574	25,743	25,691	25,639	25,587	25,535	25,483
年間総有収水量 (千m ³)	4,039	3,933	3,865	3,960	3,756	3,669	3,584	3,502	3,421	3,343
公称施設能力 (m ³ /日)	24,500	24,500	24,500	24,500	24,500	24,500	24,500	24,500	24,500	24,500
1日最大配水量 (m ³ /日)	19,298	18,081	18,922	17,453	15,938	15,938	15,938	15,938	15,938	15,938
最大稼働率 (%)	78.8	73.8	77.2	71.2	65.1	65.1	65.1	65.1	65.1	65.1
供給単価 (円/m ³)	105.03	105.62	105.25	105.07	105.22	114.63	114.63	114.63	114.63	114.63
給水原価 (円/m ³)	103.88	108.22	105.84	103.47	107.05	113.41	109.00	110.81	113.51	116.42

簡易水道事業の統合に係る基本方針

注 「統合計画の概要・実施スケジュール」又は少なくとも「検討体制・実施スケジュール、検討の方向性、結論をとりまとめる時期」を具体的に記載すること。

上水道事業施設と簡易水道事業施設の接続を含むハード統合、経営を統合するソフト統合を対象とし、平成20年度に統合計画を作成する。統合により点在する簡易水道施設の統一化とコスト削減を図り、将来的には上水道(企業経営)化となり、運営基盤強化を促進する。平成28年度統合予定。